

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

1 国語

<目次>

I	言語活動の充実と学習評価	P 1 ~ 5
1	言語の役割を踏まえた言語活動の充実	
2	言語活動の充実と学習評価	
3	指導と評価の計画を作成するに当たって留意すること	
4	指導と評価の年間計画（国語総合）〈例〉	
II	単元ごとの指導と評価の計画	P 6 ~ 13
1	評価基準の作成	
2	「単元ごとの指導と評価の計画」の作成の手順	
3	単元指導計画（国語総合）〈例〉	
III	各様式	P 14 ~ 16
1	「指導と評価の年間計画」様式	
2	「単元指導計画」様式	
3	「学習指導案」様式	

I 言語活動の充実と学習評価

1 言語の役割を踏まえた言語活動の充実

平成20年中央教育審議会答申では、言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされた。言語活動を充実する際には、言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切である。また、言語活動が単に活動することに終始することのないよう、教科のねらいを言語活動を通じて実現するために意図的、計画的に指導することが重要である。

言語の役割を踏まえた、高等学校における言語活動の指導の在り方と留意点について整理すると以下のとおりである。

(1) 知的活動（論理や思考）に関すること

教科の指導において論理や思考といった知的活動を行う際、次のような言語活動を充実する。

- 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
 - 事実等を解釈するとともに、自分の考えをもつこと、さらにそれを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
- これらの指導に当たっての留意点は以下のとおりである。

ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること

(ア) 事実等を正確に理解すること

事実や他者の意見を正確に理解するためには、主観にとらわれず、事実等と意見や考えなどを明確に区別することが必要になる。

特に、複雑な事実等については、解釈のための視点がないと理解することは難しい。そこで、事実等を正確に理解するために、事実等の内容について、例えば5W1H（いつ、どこで、誰が、なにを、なぜ、どのように）など、どのような点に着目して理解するか、視点をもつことが必要である。そうした視点に応じて事実等の対象から情報を適切に取り出すことによって、事実等を正確に理解することができるようになる。

事実等を正確に理解するための指導を行う際には、次の点に留意することが大切である。

- ①生徒が理解するに当たって、視点をもたせるようにすること
- ②設定した視点に応じて対象から情報を適切に取り出すようにすること

(イ) 他者に的確に分かりやすく伝えること

理解した事実等を他者に的確に分かりやすく伝えるためには、自分や聞き手・読み手の目的や意図に照らして事実等を整理し、明確に伝えることが必要である。そのため、的確に分かりやすく伝えるように指導をする際には、次の点に留意する。

- ①自分や伝える相手の目的や意図を捉えるようにすること
- ②目的や意図に応じて事実等を整理できるようにすること
- ③構成や表現を工夫しながら伝えられるようにすること

イ 事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

(7) 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること

事実等を正確に理解した後、それを自分の知識や経験と結び付けて解釈することによって自分の考えをもつこと、さらにその自分の考えについて、理由や立場を明確にして説明することなどを通じて、自分の考えを深めていくことが重要である。

また、他者の考えを認識しつつ自分の考えについて前提条件やその適用範囲などを振り返るとともに、他者の考えと比較、分類、関連付けなどを行うことで、多様な観点からその妥当性や信頼性を吟味し、考えを深めること、すなわちクリティカル・シンキングも大切になる。

そのため、自分の考えを深める指導を行う際には、次の点などに留意する。

- ①事実等を知識や経験と結び付けて解釈し、自分の考えをもたせるようにすること
- ②自分の考えについて、探究的態度をもって意見と根拠、原因と結果などの関係を意識し、説明する際にはそれを明確に示すこと
- ③自分の考えと他者の考えの違いを捉え、それらの妥当性や信頼性を吟味したり、異なる視点から検討したりして振り返るようにすること

(4) 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

考えを伝え合うことは、自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かしたり、相手の立場や考えを考慮し、尊重したりすることで自らの考えや集団の考えを発展させることにつながる。

そのためには、集団の中で生徒がそれぞれの考えを表明し合うことを通じて、いろいろなものの見方や考えがあることに気付き、それぞれの考えの根拠や前提条件の違い、特徴などを捉えることが重要である。また、それぞれの考えの違いや特徴を確認し合いながら、それらの考えを整理することを通じて、更に自分や集団の考えを振り返り、考えを深めることが重要である。

このため、考えを伝え合う指導をする際は、自分の考えや意見を持ち、深めることを前提としつつ、次の点などに留意する。

- ①考えを伝え合う中でいろいろな考えや意見があることに気付くことができるようにすること
- ②それらの考えには根拠や前提条件に違いや特徴があることに気付くことができるようにすること
- ③それぞれの考えの異同を整理して、更に自分の考えや集団の考えを発展させることができるようにすること

(2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること

コミュニケーションに関する指導を行う際には、他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を尊重し理解するなど互いの存在についての理解を深めるような言語活動を充実する。

感性や情緒に関する指導を行う際には、体験したことや事象との関わり、人間関係、所属する文化の中で感じたことなどを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりするような言語活動を充実する。

ア 互いの存在についての理解を深め、尊重すること

よりよい生活や人間関係を築くためには、自分や他者の思いや考えを共通の目的の下に整理して、互いに理解し合うといったコミュニケーションが重要である。しかし、近年、自分や他者の思いや考えを表現したり受け止めたりする語彙力や表現力が乏しいことにより、他者と適切な関係がとれなくなったり、感情をうまくコントロールできない生徒が見られるとの指摘がある。

良好なコミュニケーションを図るためには、思いや考えを表現するための語彙を豊かにし、表現力を身に付けることが重要である。また、自分の思いや考えをもちつつそれを相手に伝えるとともに、相手の思いや考えを理解し、尊重しようとすることも大切である。その上で、自分と相手の思いや考えについて、「何が同じ」で「何が異なるか」という視点で整理しながら、相手の話をしっかり聞き取り、受け止めるようにするとともに、納得したり、合意したり、折り合いを付けたりするなど、状況に応じて的確に反応することができるようにすることも大切である。

このため、コミュニケーションに関する指導を行う際には、次の点などに留意する。

- ①語彙を豊かにし、表現力を育むこと
- ②自分の思いや考えを伝えようとするとともに、相手の思いや考えを理解し尊重できるようにすること
- ③自分の思いや考えの違いを整理しつつ、相手の話を聞き、受け止めることができるようにすること
- ④相手の話に対して、状況に応じて的確に反応できるようにすること

イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

感性・情緒は、事象との関わりや他者との人間関係、所属する文化などの中で感じたことを言葉にしたり、心のこもった言葉を交わし合ったりすることによって一層育まれていくものである。そのような豊かな感性・情緒を通して、良好な人間関係を築くことにもつながる。

なお、論理と情緒とが対立する問題として捉えられることがあるが、必ずしも適当ではない。物事を直観的に捉えるだけではなく、分析的に捉えることも情緒を豊かにしていく上で有効である。例えば、単に「わあー、すごい」という言葉だけで感情表現するのではなく、「何が」「どのように」「すばらしい」のかについて、具体的な表現を用いて相互に伝え合うことにより、より細やかな感性・情緒を実感できるようになる。

このようなことから、感性・情緒等に関する指導を行う際、次の点が大切である。

- ①様々な事象に触れさせたり体験させるようにすること
- ②感性・情緒に関わる言葉を理解するようにすること
- ③事象や体験等について、より豊かな表現、より論理的で的確な表現を通して互いに

交流するようにすること

2 言語活動の充実と学習評価

新しい学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力等を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視することとし、その際特に、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言語の重要性を踏まえて、言語活動を充実することとしている。

これらの能力の実現状況を適切に評価し、一層育成していくために、学習評価についての基本的な考え方を整理し、評価の観点等の具体的な手立てを工夫する必要がある。すなわち、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、表現する活動と一体的に評価する観点を設定することとし、観点別学習状況の観点については、従来の「思考・判断」を「思考・判断・表現」と改める。そして、この「思考・判断・表現」の観点については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、説明、論述、討論等といった言語活動等を通じて、思考・判断の過程を含めて評価するものであることに留意する必要があるとしている。

学習指導の改善や教育課程全体の改善につながる学習評価の意義・目的を踏まえ、言語活動を通して育成する、思考力・判断力・表現力等について、各教科の対応する観点において適切に評価することが求められる。

3 指導と評価の年間計画を作成するに当たって留意すること

年間の指導と評価の計画を作成するに当たっては、各教科の目標、内容を常に意識する必要がある。その上で、学校が地域や生徒の実態に即して設定した教育目標や、国語の目標、内容を実現させるために、次の過程を経ながら、年間を通して指導事項に偏りが生じないよう単元（題材）を系統的に配置する必要がある。

①身に付けさせたい能力・態度（指導の目標）を明確にする・

→学習指導要領の指導事項（学習指導要領の内容の（1）に示しているもの）に基づく。

→指導する順序を決定し、指導事項ごとに、評価基準を設定する。

②生徒に身に付けさせたい能力や態度を育成するのにふさわしい言語活動を、学習指導要領の内容の（2）などから取り上げる。

③上記①、②にふさわしい教材や題材を選定する。

なお、「国語総合」は高校生はだれでも履修しなければならない、共通必修科目であり、小・中学校と同様に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で構成されており、「話すこと・聞くこと」を主とする指導に15～25単位時間程度、「書くこと」を主とする指導に30～40単位時間程度を配当することになっている。年間計画には領域ごとの時間数を明示すること。

また、学校図書館の利活用や読書活動、音声言語や映像による教材、コンピュータの利用について指導についても、計画的に活用することが大切である。

4 指導と評価の年間計画(国語総合) <例>

科目名: 国語総合

岐阜県立 ○○ 高等学校

科目		単位数	指導学年	使用教科書名	指導者名										
国語総合		4	1学年	新編国語総合(○○社)	○○○○										
目標		国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。													
生徒の実態と指導の重点		(略)													
月	単元名	育成する領域(時間)			評価の観点					主な評価方法	言語活動	教材	備考 (IT、学校図書館との連携等)		
		話す聞く	書く	読む	関心・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	知識理解						
4月	オリエンテーション	1				◎	○		○			メモをまとめる			
	スピーチする	2	2			○	◎		○	行動の観察 行動の観察	スピーチ A-ア	show&tellで自己紹介			
	評論(一)-1 評論を読む			4		○			◎	○	記述の分析 行動の観察	グループによる話し合い C-ウ	「技術が道徳を代行する」とき		
	評論(一)-2		2			○	◎		○		記述の点検	要約文の作成	「ボランティアの報酬」		
5月	古文(一) 古文に親しむ			8		○			◎	○	ノートの点検 行動の観察	グループによる話し合い C-ウ	「権児のそら寝」 「絵仏師良秀」 「竹取物語」		
	評論(二) 評論を読む			4		○			◎	○	行動の観察 ノートの点検	グループ活動でホワイトボードを利用した話し合い	「水の東西」		
	漢文(一) 漢文に親しむ			6		○			◎	○	ノートの点検 行動の観察	C-ウ			
	定期考査		2												
6月	小説(一) 小説を読む			6		○				◎	○	ノートの点検 記述の確認 行動の観察	「羅生門」と「今昔物語集」とを読み比べる。 C-エ	「羅生門」	
	古文(二) 随筆を読む			5		○				◎	○	行動の観察	暗唱	「徒然草」	
	手紙を書く		3			○				◎	○	記述の分析	手紙 B-ウ	・夏期休暇の帰郷として、中学校の恩師に手紙を出す。	
	詩歌			3		○				◎	○	記述の確認	音読	「椰子の実」 「サーカス」等	
7月	ブックトーク			3		○	◎				○	行動の観察	ブックトーク A-イ	学校図書館と協力する。	
	古文(三)-1 物語・日記文学に親しむ			9		○				◎	○	ノートの点検	グループによる話し合い C-ウ	伊勢物語「芥川」「筒井筒土佐日記」	
	古文(三)-2			3		○				◎	○	記述の分析	和歌から物語を創作する。 C-ア		
	漢文(二) 史話			4		○				◎	○	ノートの点検	C-ウ	「鶏口牛後」 「先従陳始」	
10月	評論(三)-1			6		○				◎	○	ノートの点検 記述の点検	グループによる話し合い C-ウ	「身体の想像力」	
	評論(三)-2			2		○				◎	○	記述の点検	要約文の作成		
	意見文を書く			6		○				◎	○	記述の点検	意見文の作成、交流		
	小説(二)			5		○				◎	○	ノートの点検	感想文 C-エ	「なめとこ山の熊」	
11月	古文(三)			5		○	◎			◎	○	行動の観察	群読	群読の発表の様子をビデオカメラで録画	
	中間考査		2												
12月	漢文(三)			6		○					◎	○	記述の確認 ノートの点検	鑑賞文 C-ウ	漢詩
	ポスターセッション		3			○	◎					○	発表の分析	ポスターセッション	P Cの利用
	評論(四)			5		○					◎	○	期末考査 課題提出	グループによる話し合い C-ウ	「なぜ私たちは労働するのか」
1月	ディベート		4	4		○	◎				○	行動の観察	ディベート A-ア	現代社会の教員による指導を行う。	
2月	古文(四)-1			6		○					◎	○	ノートの点検	グループによる話し合い C-ウ	「奥の細道」 和歌
	古文(四)-2			4		○				◎	○	記述の分析	鑑賞文 A-イ		
	俳句を作る			4		○				◎	○	作品の分析	俳句創作 B-ア	P Cを利用してデジタルカメラで撮影した写真と創作俳句を組み合わせて発表する。	
	漢文(四)			5		○					◎	○	ノートの点検 ノートの点検	グループ C-ウ	「雑説」
学年末考査			2												

Ⅱ 単元ごとの指導と評価の計画

1 評価規準の作成

(1) 評価規準の基本的な考え方

評価規準は、学習指導要領に示す目標の実現状況を客観的に判断するためのよりどころとなるものである。観点別に設定し、生徒の身に付けた資質や能力の質的な面を評価することを目指す。評価規準は、「おおむね満足できると判断される」状況について設定し、それに照らして「十分満足できる」状況や、「努力を要する」状況を判断するのが適当である。

(2) 評価規準の作成について

評価規準の作成については、国立教育政策研究所教育課程研究センターが示した「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～」（以下「評価のための参考資料」と略す）を参考にす。この資料は、平成24年7月に発表されている。（国立教育政策研究所のホームページにも掲載されている。http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/01_kou_kokugo.pdf）これを参考に、各学校の実態を踏まえ適切に定めること。

<高等学校国語における評価の観点及びその趣旨>

観点別学習状況の評価の観点は「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点を基本としている。各教科の観点は、教科の特性やこれまでの実践の蓄積を踏まえて設定している。そこで、国語は従前と同じく、「国語総合」の領域による能力の観点とし、「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」「知識・理解」の5観点としている。

【評価の観点及びその趣旨】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んで、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

また、各科目における評価の観点は、下記のとおり「○」印が付いた観点である。

	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語総合	○	○	○	○	○
国語表現	○	○	○		○
現代文A	○			○	○
現代文B	○	○	○	○	○
古典A	○			○	○
古典B	○			○	○

2 「単元ごとの指導と評価の計画」の作成の手順

手順 1 当該単元の目標を設定し、単元の評価規準を設定する。

- ・単元の目標 学習指導要領に示す該当科目の目標を確認する。
- ・評価の観点及びその趣旨 「評価のための参考資料」に示された内容を参考にする。

<例：国語総合>

【科目の目標】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

【評価の観点の趣旨】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

「単元の目標の設定、単元の評価規準の設定」について

(1) 単元の目標の立て方

各単元の目標は次の3つの観点で構成する。

ア 関心・意欲・態度

- ・下記「イ」の領域の目標を基にし、学習内容について関心をもち、自ら学ぼうとする意欲や態度について記述する

イ 「話す・聞くこと」の領域 又は「書くこと」の領域 又は「読むこと」の領域の指導事項

- ・選択した領域の指導事項を1～2事項
- ・生徒に身に付けさせたい力明確にすること。

ウ 知識・理解（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を基に記述する。

・留意事項

- ・「イ」の領域の目標については、原則として一つの領域を取り上げる。教材や学習の進め方によって、複数の領域を単元目標に設定することもできる。例えば「読むこと」の領域の単元においては、読むことを行うに当たって、教材について話し合ったり、文章を書いたりする活動が行われることがあるが、これらの活動は「読むこと」の能力を身に付けるために行われる手立てということになり、その単元で身に付けさせる能力は「読むこと」の領域に関することになる。

(2) 単元の評価規準の設定の仕方

評価規準を設定するに当たっては、上記に定めた目標に対し、おおむね満足できる状況として設定するものである。

各単元の評価規準は、単元の目標に対応するように、評価の観点ごとに設定する。

ア 関心・意欲・態度

- ・単元の中で最も重点を置いている学習内容について関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲や態度を身に付けている状況を示す。
- ・下記「イ」に基づき、文末を「～しようとしている」とする。

イ 「話す・聞くこと」の領域 又は 「書くこと」の領域 又は 「読む」ことの領域の指導事項

- ・単元の目標に対し、生徒がおおむね満足できる状況を示す。
- ・文末を「～している。」又は「～できる。」とする。

ウ 知識・理解（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

- ・単元の目標に示した知識・理解に関する事項が身に付いている状況を示す。
- ・文末を「～している。」とする。

留意事項

- ・単元目標と評価規準は一体のものである。
評価規準を単元の目標とのずれがないように位置付け、指導と評価の一体化を図る。単元で指導する「身に付けさせたい力」を明確にし、指導したことを評価し、次の指導につなげる。
- ・生徒の実態や教材等を踏まえて評価規準を具体化する。
学習指導要領に照らし合わせながら、既に身に付いて活用できる力、課題と見られる力など、前単元までの学習評価を踏まえた上で具体化する。また、教材の特徴を踏まえること。
- ・単元に適した評価方法を具体的に設定する。
生徒のどのような状況を評価するのか、具体的な評価方法を考える。

手順 2 目標を実現するのにふさわしい言語活動、教材を取り上げる。

言語活動は、学習指導要領の言語活動例（内容の(2)）を参考にして、単元の目標を実現するのにふさわしいかどうかを吟味して取り上げる。なお、言語活動は、当該単元の指導時点までに、既に指導されていることである。言語活動を取り上げるに当たっては、以下の点に留意する。

・手立てとしての言語活動

言語活動そのものが学習の目的とならないようにする。言語活動は身に付けさせたい力を指導するための手立てであり、効果的であると考えられるものを設定する。

・各領域の能力を関連させる言語活動

話す・聞く、書く、読むなど、様々な領域の言語能力を関連させる。各領域の既習の言語能力を活用しながら言語活動を行い、目標とする領域の新たな言語能力を育成する。

・見通しが持てる言語活動

生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよ

うにする。生徒自身が言語活について、何のために行い、どのような方向で進めていくのかといった目的や見通しを持ったり、生徒自身が自分の言語活動を振り返ったりできるようにすること。そうすることで自ら学び、課題を解決していく能力を育成していくことになる。

〔「国語総合」領域別言語活動例「新学習指導要領」内容の（２）〕

話すこと ・ 聞くこと	ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。 イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。 ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。
書くこと	ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。 イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。
読むこと	ア 文章を読んで脚本にししたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。 イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。 エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

手順 3 当該単元の授業で実際に用いる具体的な評価規準を設定する。

授業で実際に用いるための評価規準については、上記2で取り上げた言語活動や教材を踏まえて、上記①の段階の評価規準を具体化する。評価規準は、目標の実現を図るための意図的・計画的な指導によって、全ての生徒が身に付けるべき資質・能力を、観点ごとに、「おおむね満足できる」状況（B）として示したものである。したがって、「目標」が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に示す「評価規準」を設定する際も、内容の(1)の指導事項に拠ることとなる。

この評価規準を設定するとき、「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）が参考となる。また、学校や生徒の実態に応じて適宜変更する。実際に評価を行う際には、指導と同じく、評価も言語活動を通して行うということである。そこでは、言語活動ができているかどうかを評価するのではなく、目標に掲げた国語の能力が身に付いているかどうかを、言語活動の状況を通してみることになる。

言語活動は、当該単元の目標、身に付けさせたい国語の能力となるものではない。したがって、評価規準として設定されることもないことに注意を要する。

手順 4 当該単元における指導と評価の展開（評価方法を含む）を計画する。

身に付けさせたい国語の能力を効果的に育成するためには、単元全体を見通し、まとまりのある学習を適切に組み合わせた授業計画を作成する。また、学校や生徒の実態に応じて、指導時数はそれぞれで適切に設定する。

評価方法は、「材料」と「方法」を組み合わせる。

例えば次のように記述する。

a 観察、点検

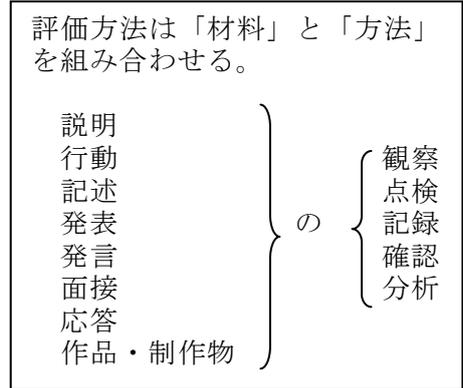
- ・行動の観察：学習の中で、評価規準が求めている発言や行動などが行われているかどうかを「観察」する。
- ・記述の点検：学習の中で、評価規準が求めている内容が記述されているかどうかを、机間指導などにより「点検」する。

b 確認

- ・行動の確認：学習の中での発言や行動などの内容が、評価規準を満たしているかどうかを「確認」する。
- ・記述の確認：学習の中で記述された内容が、評価規準を満たしているかどうかを、ノートや提出物などにより「確認」する。

c 分析

- ・行動の分析：「行動の観察」や「行動の確認」を踏まえて「分析」を行うことにより、評価規準に照らして実現状況の高まりを評価する。
- ・記述の分析：「記述の点検」や「記述の確認」を踏まえて、ノートや提出物などの「分析」を行うことにより、評価規準に照らして実現状況の高まりを評価する。



3 単元指導計画(国語総合)<例>

1 「国語総合」の目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 「国語総合」の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 単元指導計画

育成する 国語の能力	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。(C(1)イ) 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。(C(1)エ) 			
科目	国語総合	教科書名	〇〇〇〇	
単元	評論 3 教材名 山崎正和「サイボーグとクローン人間」			
単元の 指導目標	ア 本文の内容を自分に関係した現実の問題として捉えようとする。(関心・意欲・態度) イ 文頭の言葉に注目して、論理の展開を追って読むことができる。(読む能力) ウ 文中の抽象的な語句を理解し、文脈に合わせて正しく使用している。(知識・理解)			
単元の 評価規準	関心・意欲・態度	読む能力		知識・理解
	①自分の力で読解の問題に取り組もうとしている。 ②抽象的な語句を自分の言葉として使用しようとしている。	①文頭の言葉に注目して文章の展開を読み取っている。 ②本文中に言い換え・比較の関係を的確に書き込んでいる。	①語句調べがはじめてあり、本文の内容に適した意味を選択している。 ②抽象的な語句を誤解なく理解している。	
取り上げる 言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会をテーマとした文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。 			
教材等 について	①教材観 高校で教える教材のうち、生徒が戸惑いを示すものの一つに評論がある。高校の評論の内容は抽象性が高く、日常生活で使う表現のレベルを超えており、読解の方法がはっきりしていないと理解することは難しい。一般常識の範疇を超えた内容をもつ評論を、前後の文脈や文章全体の主題との関連で読み解く力を育成したい。 ②生徒の実態 (略) ③指導のポイント 導入期においては、生徒の思考が身近な生活に関することにとどまる傾向が強く、抽象的な語句の知識も少ない。導入期は中学校までに得た国語力や興味の実態など、生徒のレディネス(準備性)を把握することを授業において工夫すべきである。こうした視点に立ち、新聞などの大人向けの文章が自力で読み取れる力の獲得を目指して、上記の目標を設定し授業を展開することとした。			

単元の指導計画学習概要

時間	学習活動・目標	主な評価規準		
		関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
1	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を通読し、主題に対する自分の構えを作る。 ・クローン人間製造に関して自分なりの根拠をもって賛否を表明し、意見交換する。 ・教科書の本文を通読した上、筆者がどちらを支持しているかを自分なりに判定する。 ・学習プリントの課題に取り組み、その結果をグループで意見交換して、記入した内容を正確に修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって賛否を表明し、意見交換をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クローン人間製造に関して自分なりの根拠をもって賛否を表明し、意見交換できる。 ・筆者の立場を自分なりに考え、発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の組み立てを理解している。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○資料と本文を関連付けて、主題に関する具体的なイメージをもつ。 ○列挙・添加された内容を、文頭の言葉に注目して読み取る。 ・授業者が提示した資料に基づいて、ロボット研究の現在について知識を深める。 ・文頭の言葉に注目して、文章の内容を整理する。 ・抽象的な語句を使った短文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句に注意して、文章の内容を整理しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文頭の言葉に注目して、本文の内容を整理し理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味、用法について理解している。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○言い換えに注意しながら、筆者の立場を読み取る。 ・書いてきたロボットのアイデアを提出する。 ・抽象的な語句に注意しながら内容や筆者の立場の言い換えに注意しながら確認する。 ・抽象的な語句を使った短文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の展開を的確に捉えようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文のどこがどこの言い換えになっているかを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味、用法について理解している。
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○比較されている内容を逆接の言葉に注目して読み取る。 ・ロボットのアイデアを見合う。 ・逆接に注意しながら、筆者の意見を把握する。ロボットに対する筆者の不安の由来を理解する。 ・抽象的な語句を使った短文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に意見交換しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較の関係を把握し筆者の意見を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味、用法について理解している。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の主張をつかみ、学んだ語彙と論理展開を活用して自分の意見を文章化する。 ・最終的な筆者の主張を前時までの内容と関連付けながら把握する。 ・本文の内容を指定の文字数で要約する。 ・授業者の提示したテーマに関する小論文を、比較の型を利用しながら書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論理の構成や展開を工夫し、自分の考えを述べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の主旨を自分の言葉で理解できる。 ・論理の展開の仕方を理解し、それを使って自分の意見を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに必要な論理展開を理解している

第4時の学習指導案

本時の位置	4時間目 (全5時間)		
本時の学習目標	ア 本文中の表現を根拠として筆者の主張を読み取ることができる。 (読む能力)		
	イ 抽象的な語句の内容を確認し、自分の言葉として使用している。 (知識・理解)		
事前の準備	①前時までに提出させた「自分の考えたロボット」の絵のプリント ②「鉄腕アトム」から生徒のよく知るアニメまで様々な画像の拡大プリント ③最新のニュースから、機械によって人間の身体の可能性が大きく広げられた例。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 7分	<input type="checkbox"/> ロボットのアイデアの交流と、ロボットに対するイメージ	①前時に提出した「自分の考えたロボット」のアイデアを見合う。 ②ロボットが長く肯定的なイメージをもたれてきた事実をアニメの絵などを通じて確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントにしたアイデアを生徒自身で説明させる。これまでの授業の中で積極的に参加できなかった生徒に参加機会を作るよう配慮する。 ・授業の導入において生徒にとって懐かしいと感じる絵を提示する。

	の確認		・「筆者の支持するのはクローンかロボットか」について生徒の意見が分かれていた事実を再確認する。
展開 40分	<input type="checkbox"/> 比較の関係の読み取り <input type="checkbox"/> 本文中の抽象的な語句を使用して短文を作る。 <input type="checkbox"/> 「恣意」「絶対／相対」	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">筆者はクローン人間とサイボーグのどちらを支持しているか。</p> <p>③教科書本文の「これに比べると」に印を施し、その前後の内容がどのような関係にあるかを考える。 ④比較の関係を示す言葉を本文中に探して印を施し、その前後で比較されている内容を矢印でつなぐ。 ⑤上記の結果を隣の生徒と意見交換した後、発言などを通じて確認する。 ⑥授業者が板書に整理した比較の関係をノートに写しながら確認し、主要課題に関する結論を出す。 ⑦予習プリントの解答を隣の生徒と確認し合い、板書の正答を参考にして自分の解答を訂正する。 ⑧本文中に出てきた抽象的な語句の意味を確認し、論理の展開を明確かつ簡潔に表現するのに有効な言葉であることを確認する。 ⑨抽象的な語句を使って短文を作り、その使用方法を理解する。</p>	<p>目標アに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] ・逆接の言葉に印を打ち、前後の対義語や対照的な内容を矢印で結んでいる。 [方法] ・記述の観察(机間指導) [状況Cの生徒への手立て] ・逆接の言葉を挙げさせて、その役割が理解できているかを確認する。 ・前後の内容の関係を口頭で確認する。</p> <p>・本文への書き込み方を国語科内で統一するとよい。 ・携帯、スマートフォンによって自分の生活がどのように変化したかを意見交換させ、何人かに発表させる。 ・「機械を発達させたことで人類はどれほど傲慢になったことだろうか」の例を生徒にも考えさせ、最近の例を紹介して、現実世界との関連を実感させる。</p> <p>目標イに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] ・誤解のない使い方で、抽象的な語句の入った短文を作っている。 [方法] ・記述の観察(机間指導) ・ノートの点検 [状況Cの生徒への手立て] ・語句の意味を確認し、日常生活の場面から使用例を示して理解させる。 ・必要があれば、授業後などに個人的に指導する。</p>
	まとめ 3分	<input type="checkbox"/> 比較の關係に留意して読み取る有効性を確認する。	<p>⑩比較の關係に注目したり、抽象的な語句を覚えたりすることが、評論を讀解するのに有効な方法であるという見通しを得る。</p>

この指導案は学力向上総合推進事業授業改善アクションプラン作成委員会の研究成果を基に作成しています。

2 単元指導計画

育成する 国語の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の各科目の内容の(1)「指導事項」について記載する。 ・生徒に付けたい力を明確にする。 		
科目	教科書名		
単元			
単元の 指導目標	<p>○ ～しようとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○ ～できる。 (〇〇能力)</p> <p>○ ～できる。 (知識・理解)</p> <p>* 文末表現は、主語が生徒として、呼応した表現とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「関心・意欲・態度」＝「～しようとする。」(必ず記載する。)</p> <p>「話す・聞く能力」(「書く能力」、「読む能力」)＝「～できる。」</p> <p>三つの領域から、一つか二つに絞る</p> <p>「知識・理解」＝「～できる。」(必ず記載する。)</p> <p>* 新学習指導要領の目標、指導内容及び生徒の実態を踏まえる。</p> </div>		
単元の 評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力(書く能力 読む能力)	知識・理解
	<p>・～しようとしてい る。</p> <p>例：文章に描かれた 人物、情景、心情な どを表現に即して読 み味わおうとしてい る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>目標に対する「おおむね満足できる」状況を示したもの</p> </div>	<p>・～している。</p> <p>* 三つの能力のうち、一つ又は二つについて記載</p> <p>例：文章に描かれた人物、情景、心情など を表現に即して読み味わっている。</p>	<p>・～している</p> <p>例：文や文章の組立 て、語句の意味、用 法及び法規の仕方な どを理解し、語彙を 豊かにしている。</p>
取り上げる 言語活動	<p>各科目の学習指導要領の内容(2)か、生徒の実態に合わせた適切な言語活動を記載する。</p>		
教材等 について	<p>①教材の価値 : 年間指導との位置付け、既習事項との関連等 * この教材を学習することで生徒は何ができるようになるか。</p> <p>②生徒の実態 : 生徒の実態、何ができて、どのようなことに課題があるか。</p> <p>③指導のポイント : 生徒が目標に達するためには、この授業でどのような手立てを講じる必要があるか。</p>		

時限	学習内容・目標	具 体 の 評 価 規 準		
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力(書く能力 読む能力)	知識・理解
1				
2				

3 学習指導案 (時間目)

日 時	○年○月○日()	指導クラス	○年○組	指導者	単元の目標のうち、本字の学習活動の目標としているものを具体的に書く。 文末表現は、主語を生徒として呼応した表現にする。
科 目		使用教科書			
本時の学習目標	ア ～しようとしている。 (関心・意欲・態度) イ ～できる。 (〇〇能力) ウ ～できる。 (知識・理解)				
過程	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 観 点 別 評 価		
導 入 分					
展 開 分	学習活動のねらいを、四角囲みで書く。		目標アに対する具体的評価規準と評価方法 [規準] [方法] [状況Cの生徒への手立て]		
	本時の目標と対応する 評価場面は1～2か所		目標イに対する具体的評価規準と評価方法 [規準] [方法] [状況Cの生徒への手立て]		
	評価方法は「材料」と「方法」を組み合わせる。 説明 行動 記述 発表 発言 面接 応答 作品・制作物		の	観察 点検 記録 確認 分析	
ま と め 分					

「関心・意欲・態度」の評価方法例

ノート	}	の	}	内容
質問				説明
提出物				記述
行動				確認
				観察